

ようこそ！椋鳩十の世界へ～読書新聞～

[大造じいさんとガン（光村図書）]

第5学年 3名 指導者 原田圭輔

本単元で育成を目指す資質・能力

論理的思考力、主体性・積極性、他者理解・他者との協働

単元について

本単元は、学習指導要領 C 読むこと「イ登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」「エ人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」「オ文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」を受けて設定したものである。

本教材は、椋鳩十が大造じいさんから聞いた話をもとにして作った童話作品である。大造じいさんと残雪（ガンの頭領）との対峙を通して、動物の「えらぶつ」ぶりを描いている。構成は、物語の設定が書いてある前書き、1年目の「うなぎつりばり作戦」の1場面、2年目の「タニシ作戦」の2場面、3年目の「おとり作戦」の3場面、4年目の残雪との別れの4場面に分かれている。

場面の様子や風景を描いた表現から登場人物の心情や性格が想像できる「情景描写」が多く、優れた叙述（表現の工夫）を見つけ、それについて自分の考えをまとめるには適した教材である。

児童の実態

◎児童アンケート（肯定的回答の割合）

| | |
|-------------|------|
| 物語の学習が好き。 | 100% |
| 読書をするのが楽しい。 | 100% |

◎標準学力調査（正答率）

| | |
|----------------------|-----|
| 登場人物の様子を読み取ることができる。 | 33% |
| 登場人物の気持ちを読み取ることができる。 | 33% |

本学級の児童は、学習に前向きに取り組んでおり、物語の学習は好きである。しかし、叙述を基に登場人物の様子や気持ちを読み取ることが難しい。根拠を明確にせず、自分の意見や考えを発表することが多く見られる。大まかな内容をつかむことは速いが、大事な言葉（表現）や場面の移り変わりを押さえずに読んでいる。また、読書についても、じっくりと読んでいるとは言えない状況がある。

叙述をもとに、物語の流れに沿って心情や相互関係を想像すること、大事なことばを押さえて自分の読みをもつこと、様々な物語をじっくりと読み、自分の考えをもつことに課題があると言える。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「ようこそ！椋鳩十の世界へ」と設定し、作者椋鳩十や椋鳩十作品を紹介するための新聞を作る。そのために、椋鳩十について書かれた文章を読んで分かったことをまとめたり、「大造じいさんとガン」をもとに、情景描写を中心とした作者の表現の工夫を見つけたりする。椋鳩十資料館に送って掲示していただけのように、新聞を読んだ人が椋鳩十作品に触れたい新聞をつくるという目的意識を持たせる。

第一次では、本を読んで分かったことをまとめる方法として、「読書新聞」というものがあることを教える。椋鳩十の作品を読んで、作者や椋鳩十作品をまとめる読書新聞を作成するという学習課題を設定する。また、「作家像」（生涯、人柄、考え方等）をつかんでから作品を読むという方法があることを新しく学ばせる。

第二次では、「大造じいさんとガン」について、大まかにあらすじや大造じいさんの心情を読み取らせた後、場面ごとに大造じいさんの心情を表現している言葉や文（情景描写）を見つけ出させ、大造じいさんとガンの関係について話し合わせる。まとめとして、作品を通して、作者は何を読者に伝えようとしているのか話し合う。

第三次では、これまでの学習を活かして、読書新聞を作成する。

単元の目標

- 比喩や反復等の表現の工夫に気付くことができる。 【知識及び技能(1)ク表現の技法】
- 登場人物の相互関係や心情等について、描写を基に捉えることができる。 【読むことイ】
- 人物像や物語等の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 【読むことエ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【読むことオ】
- 目的や相手意識をもって、文章を読んだり、読書新聞を作ったりすることができる。 【学びに向かう力、人間性】

単元を通した課題となる言語活動

椋鳩十に興味をもってもらったり、椋鳩十作品を手にとってもらうために、椋鳩十のことが分かったり、椋鳩十作品のおもしろさが伝わったりする読書新聞を作る。

単元でつける「ことばの力」(学習用語)

| 【読む】 | 【書く】 |
|--------------|--------------|
| ○中心人物 | ○見出し |
| ○対人物 | ○表現の工夫 |
| ○題名 | ○あらすじ |
| ○情景描写 | ○感想 |
| ○相互関係（人物関係図） | ○割り付け（レイアウト） |
| ○場面 | |
| ○人物像 | |
| ○全体像 | |

評価規準

| 教科【国語科】でつける資質・能力 | | | 木原小学校として 単元で育成を目指す 資質・能力 |
|------------------------------|---|---|--|
| 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力 【読む能力】 (★論理的思考力) | 学びに向かう力，人間性 (☆主体性・積極性) (◎他者理解・他者との協働) | |
| 物語を読む時に，比喻や反復等の表現の工夫に気付いている。 | <p>★登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えている。 (構造化する)</p> <p>★人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。 (多面的に見る)</p> <p>★文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。 (要約する)</p> | <p>☆◎目的や相手意識をもって，文章を読んだり，読書新聞を作ったりしている。</p> | <p>【論理的思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を使って，構造化している。 ・言葉にこだわり，物事について多面的に見ている。 ・ノートやメモをもとに要約している。 <p>【主体性・積極性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見，追究，解決を繰り返し，学びを連続，発展させている。 <p>【他者理解・他者との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のよさ，意見や考え方の違いを認め，受け止めている。 |

精査力・解釈力を育てるための対話の工夫

【テキストとの対話】

(1) 物語10の読みの視点を活用した一人学び

| |
|--|
| <p>①時…前書き(現代)，1場面(1年目秋)，2場面(2年目秋)，3場面(3年目秋)，4場面(4年目春)</p> <p>②場所…大造じいさんの家(前書き)，ぬま地(1～3場面)，スモモの花の下(4場面)</p> <p>③登場人物…大造じいさん，残雪</p> <p>④中心人物…大造じいさん</p> <p>⑤対人物…残雪</p> <p>⑥出来事…仲間を助けるためにハヤブサと戦った残雪が，残りの力を振り絞って長い首を持ち上げ，大造じいさんを正面からにらみつけた。</p> <p>⑦結末…大造じいさんは，強く心を打たれて，ただの鳥に対してのような気がしなかった。</p> <p>⑧物語を一文で表す…残雪のことをいまいまして思っていた大造じいさんが仲間のために戦う残雪のたくましい姿を見ることによって，強く心を打たれ，正々堂々と戦うことを決意する話。</p> <p>⑨語句の意味…「頭領」「形跡」「感嘆の声」「大群」「5俵」「あんばい」「案の定」「会心のえみ」など</p> <p>⑩表現の工夫…「東の空が真っ赤に燃えて，朝が来ました」(情景)， 「大造じいさんのむねはわくわくしてきました」(心情)， 「美しい朝の空を真一文字に横切ってやってきました」(行動)など</p> |
|--|

(2) 物語の「ナゾ」の設定，解決

<児童から出てくると予想される「ナゾ」及び指導者が解かせたい「ナゾ」>

○なぜ「前書き」があるのか。

○「大造じいさんは，ぐっとじゅうをかたに当て，残雪をねらいました。が，なんと思ったか，再びじゅうを下ろしてしまいました。」…なぜ，再びじゅうを下ろしたのか。

○「大造じいさんは，強く心を打たれて，ただの鳥に対してのような気がしませんでした。」…大造じいさんは何に心を強く打たれたのか。残雪に対してどんな思いをもつようになったのか。

○なぜ，「ある晴れた春の朝」に残雪を放したのか。

○「あれはひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。…また堂々と戦おうじゃあないか。」…ひきょうなやり方とはどんなやり方なのか。堂々と戦うとはどんな戦い方なのか。

○大造じいさんはなぜ晴れ晴れとした顔つきで見守っていたのか。いつまでも，いつまでも，見守っているのはなぜか。

(3) 椋鳩十についての資料を読む

教科書には掲載されていない椋鳩十についての資料を児童に配布し，椋鳩十について分かったことを整理させる。様々な文章に触れさせ，情報を得る力をつける。

【他者との対話】

(1) 異学年学習の設定

上学年の6学年児童は昨年度、同時期に椋鳩十について調べたり、椋鳩十作品について読んだりする学習をしている。そこで、6学年児童が椋鳩十や椋鳩十作品について補足説明したり、5年生が気づいていない視点を言ったりする活動を設定し、対話を促す。上学年から教えてもらうことで、自分たちの学習に対して主体的、積極的に取り組む姿勢を作ることができると思う。また、作った読書新聞を互いに見合う活動を仕組むことで、対話を促し、吟味検討をさせることができる。目的や相手を意識した、適切な読書新聞になっているかを考え、判断させる。

(2) 学校図書館司書の指導

学校図書館司書から児童に指導していただくことで、読書新聞や椋鳩十についての専門的な知見を児童に与える。それを通して、自分たちの知識や技能、考えを広げ、深めさせていく。大人との対話を入れることで、自分の読みについて再考する機会を与えることができると思う。

【自己との対話】

(1) 学習の振り返り

毎時間、学習の振り返りを行う。学習を通して考えたこと、分かったことや学習での自分や友達のよかったところについて振り返りを行うことで、学びを自覚化させることができると思う。また、単元の終わりには単元全体の振り返りも行い、自分にはどんな力がついたのか意識させる。

並行読書で読んだ作品についてメモする読書記録とらせたり、誰がどの作品を読み終ったのかを把握できる一覧表にチェックさせたりすることで、読書への取組に対して自覚を促す。

(2) 活動の振り返り

読書新聞を椋鳩十資料館へ送付し、掲示していただく。その反応について椋鳩十資料館から情報をいただき、児童に伝えることで、自分たちの活動の振り返りをさせる。成果や課題について整理し、他の学習へ生かす。

単元計画 (全15時間)

| 次 | 時 | 学習活動 | 評価 | | | |
|---|---|---|----|----|----|---|
| | | | 知技 | 読む | 学ぶ | 評価規準 (評価方法) |
| 一 | 1 | 課題の設定 学習課題「ようこそ!椋鳩十の世界へ」を設定し、読書新聞を見て、学習計画を立てる。 | | | ○ | 学習課題から学習の見通しをもち、学習計画を立てている。 (ノート, 発言) |
| | 2 | 情報の収集 整理・分析 椋鳩十についての資料を読み、作者について分かったことをまとめる。 | | ○ | | 文章を読んで分かったことをまとめている。 (ノート) |
| | 3 | 情報の収集 整理・分析 椋鳩十について分かったことを共有し、整理・分析する。 | | | ○ | 文章を読んで椋鳩十について知ろうとしている。 (ノート, 行動観察) |
| 二 | 4 | 情報の収集 物語「大造じいさんとガン」を読み、一人学びをする。 | | | ○ | 本文を読んで、物語の大体を捉え、物語の「ナゾ」を見つけている。 (ノート) |
| | 5 | 情報の収集 整理・分析 あらすじと大造じいさんの心情の変化について大まかに整理する。 | | ○ | | 登場人物の相互関係について描写をもとに捉えている。 (ノート, 発言) |
| | 6 | 情報の収集 整理・分析 大造じいさんの心情や場面の様子を表す言葉や文をもとに、1場面の物語の「ナゾ」を解決する。 | ○ | ◎ | | 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。 人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 比喩や反復等の表現の工夫に気付いている。 (ノート, 発言) |

椋鳩十作品の並行読書

| | | | | | | |
|---|--|--|---|---|---|--------------------------------|
| 7 | 情報の収集 整理・分析 大造じいさんの心情や場面の様子を表す言葉や文をもとに、2場面の物語の「ナゾ」を解決する。 | ○ | ◎ | | 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。 人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 比喩や反復等の表現の工夫に気付いている。(ノート, 発言) | |
| | 情報の収集 整理・分析 大造じいさんの心情や場面の様子を表す言葉や文をもとに、3場面の物語の「ナゾ」を解決する。 | ○ | ◎ | | 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。 人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 比喩や反復等の表現の工夫に気付いている。(ノート, 発言) | |
| | 情報の収集 整理・分析 大造じいさんの心情や場面の様子を表す言葉や文をもとに、4場面と前文の物語の「ナゾ」を解決する。(本時) | ○ | ◎ | | 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。 人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 比喩や反復等の表現の工夫に気付いている。(ノート, 発言) | |
| 10 | まとめ・創造・表現 椋鳩十が様々な作品を通して伝えたいことについて考え、話し合う。 | | ◎ | ○ | 物語の全体像を具体的に想像し、作者が作品を通して伝えたいことについて考えている。(ノート, 発言) | |
| 三 11 | 整理・分析 読書新聞に載せる情報を整理し、割り付けや見出しを考える。 | | | ○ | 目的や相手意識をもって新聞をつくらうとしている。(行動観察) | |
| | 12 13 14 | まとめ・創造・表現 椋鳩十や椋鳩十作品を伝えるための読書新聞をつくる。 | | | ○ | 目的や相手意識をもって新聞をつくらうとしている。(行動観察) |
| | 15 | まとめ・創造・表現 読書新聞を互いに見合い、椋鳩十や椋鳩十作品について見方や考え方を広げたり深めたりする。 単元の学習を振り返り、自分のついた力について自覚する。 | | | ○ | 目的や相手意識をもって新聞をつくらうとしている。(行動観察) |
| 実行・振り返り 椋鳩十資料館へ読書新聞を送り、掲示していただく⇒反応について知る | | | | | | |

ようこそ！宮沢賢治の世界へ～読書新聞～

〔伝記 宮沢賢治・注文の多い料理店（東京書籍）、イーハトーブの夢（光村図書）〕

第6学年 5名 指導者 原田圭輔

本単元で育成を目指す資質・能力

論理的思考力、主体性・積極性、他者理解・他者との協働

単元について

本単元は、学習指導要領 C 読むこと「イ登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」「エ人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」「オ文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」を受けて設定したものである。

本教材は、宮沢賢治が書いたファンタジー作品である。自己中心的な若い2人の紳士が、「風がどうとふいてきて…」の一文から非現実の世界に引き込まれ、山猫軒での注文に応じていく。この料理店はおかしいということに読者は気付くが、2人の紳士は最後の扉まで気づかずに進んでいく設定である。

紳士を通して、現代社会や現代人を批判する宮沢賢治の思いがよく込められた作品であると同時に、比喩やオノマトペ等の表現の工夫がちりばめられたエンターテインメント性が高い作品であり、児童にとって宮沢賢治を学ぶには適した教材である。

児童の実態

◎児童アンケート（肯定的回答の割合）

| | |
|-------------|------|
| 物語の学習が好き。 | 100% |
| 読書をするのが楽しい。 | 100% |

◎標準学力調査（正答率）

| | |
|---------------------|------|
| 登場人物の様子を読み取ることができる。 | 80% |
| 登場人物の心情を読み取ることができる。 | 100% |

本学級の児童は、物語の学習や読書が好きである。物語を読む時には、集中して楽しみながら読んでいく姿が多い。しかし、叙述を基に登場人物の様子や心情を読み取ることが難しい。根拠を明確にせず、自分の意見や考えを発表することが多く見られる。また、自分たちの考えを吟味検討、深めるまでの話し合いを進めるまでには至っていない。大まかな内容をつかむことは速いが、大事な言葉（表現）や場面の移り変わりを押さえずに読んでいく。

叙述をもとに、叙述をもとに心情や相互関係を想像すること、大事な言葉を押さえて読みを深めることに課題があると言える。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「ようこそ！宮沢賢治の世界へ」と設定し、作者や宮沢賢治作品を紹介するための新聞を作る。そのために、宮沢賢治について書かれた文章を読んで分かったことをまとめたり、「注文の多い料理店」をもとに、比喩やオノマトペを中心とした作者の表現の工夫を見つけたりする。宮沢賢治資料館に送って掲示していただけるように、新聞を読んだ人が宮沢賢治作品に触れたいという目的意識を持たせる。

第一次では、本を読んで分かったことをまとめる方法として、「読書新聞」というものがあることを教える。宮沢賢治の作品を読んで、作者や宮沢賢治作品をまとめる読書新聞を作成するという学習課題を設定する。また、「作家像」（生涯、人柄、考え方等）をつかんでから作品を読むという方法で学習を進める。

第二次では、「注文の多い料理店」について、大まかにあらすじや2人の若い紳士の心情を読み取らせた後、物語をおもしろくするための表現の工夫を見つけ、どんな効果があるかについて考えさせる。まとめとして、作品を通して、作者は何を読者に伝えようとしているのか話し合う。

第三次では、これまでの学習を活かして、読書新聞を作成する。

単元の目標

- 比喩や反復等の表現の工夫に気付くことができる。 【知識及び技能(1)ク表現の技法】
- 登場人物の相互関係や心情等について、描写を基に捉えることができる。 【読むことイ】
- 人物像や物語等の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 【読むことエ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【読むことオ】
- 目的や相手意識をもって、文章を読んだり、読書新聞を作ったりすることができる。 【学びに向かう力、人間性】

単元を通した課題となる言語活動

宮沢賢治に興味をもってもらったり、宮沢賢治作品を手にとってもらうために、宮沢賢治のことが分かったり、宮沢賢治作品のおもしろさが伝わったりする読書新聞を作る。

単元でつける「ことばの力」(学習用語)

【読む】

- 中心人物 ○対人物
- 題名 ○比喩 ○反復
- 相互関係（人物関係図）
- 場面 ○人物像 ○色
- 全体像 ○オノマトペ

【書く】

- 見出し
- 表現の工夫
- あらすじ
- 感想
- 割り付け（レイアウト）

評価規準

| 教科【国語科】でつける資質・能力 | | | 木原小学校として 単元で育成を目指す 資質・能力 |
|------------------------------|---|---|--|
| 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力 【読む能力】 (★論理的思考力) | 学びに向かう力、人間性 (☆主体性・積極性) (◎他者理解・他者との協働) | |
| 物語を読む時に、比喻や反復等の表現の工夫に気付いている。 | <p>★登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 (構造化する)</p> <p>★人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (多面的に見る)</p> <p>★文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (要約する)</p> | <p>☆◎目的や相手意識をもって、文章を読んだり、読書新聞を作ったりしている。</p> | <p>【論理的思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を使って、構造化している。 ・言葉にこだわり、物事について多面的に見ている。 ・ノートやメモをもとに要約している。 <p>【主体性・積極性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見，追究，解決を繰り返し，学びを連続，発展させている。 <p>【他者理解・他者との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のよさ，意見や考え方の違いを認め，受け止めている。 |

精査力・解釈力を育てるための対話の工夫

【テキストとの対話】

(1) 「物語10の読みの視点」を活用した一人学び

| |
|---|
| <p>①時…冬</p> <p>②場所…山奥</p> <p>③登場人物…2人の若い紳士，注文をする人物，獵師</p> <p>④中心人物…2人の若い紳士</p> <p>⑤対人物…注文をする人物</p> <p>⑥出来事…山猫軒という西洋料理店が現れ，紳士たちに注文をしていく。 ・紳士の顔がくしゃくしゃの紙くずのようになった</p> <p>⑦結末…十円だけ山鳥を買って東京に帰ったが，二人の顔は元のおりになおらなかった。</p> <p>⑧物語を一文で表す…自己中心的な2人の若い紳士が，変な注文に対して次々と答えることによって，食べられてしまうことを知り，顔が紙屑のようになった話。</p> <p>⑨語句の意味…「痛快」「まごつく」「損害」「始終」「用意周到」など</p> <p>⑩表現の工夫…「風がどうとふいてきて，草はザワザワ．木の葉はカサカサ．木はゴトンゴトンと鳴りました」(オノマトペ)， 「がたがたがたがたふるえだして…」(反復)， 「顔がまるでくしゃくしゃの紙くずのようになり」(比喻)， 「戸には赤い字で…」「黒い台」「金ぴかの香水のびん」(色彩) など</p> |
|---|

(2) 物語の「ナゾ」の設定，解決

<児童から出てくると予想される「ナゾ」及び指導者が解かせたい「ナゾ」>

- 2人の紳士は最初と最後で変わったのか。
- 「2人はあんまり心をいためたために…」…どのように心をいためたのか。
- 色の表現がたくさんあるのはなぜ。
- 死んでしまったはずの2匹の犬が最後に助けてくれたのはどうして。
- 紳士たちの顔が元のおりになおらなかったのはどうして。

(3) 宮沢賢治についての資料を読む

宮沢賢治についての資料や伝記を児童に配布したり，教室に置いたりして，宮沢賢治について分かったことを整理させる。様々な文章に触れさせると同時に，自分から情報を収集する力をつける。

【他者との対話】

(1) 異学年学習の設定

昨年度の同時期に椋鳩十の作者像をつかんで作品を読む学習をしている。そのため児童は、椋鳩十の人物像をとらえたり、いろいろな椋鳩十作品を読んだりしている。一方、5学年児童は作者像を理解した後で物語を読む学習はしていない。そこで、6学年児童が5学年児童に椋鳩十の作者像について教える学習活動を設定し、対話を促す。自分たちのこれまでの学習を意識化させることで、学習に対して主体的、積極的に取り組むことができると考える。また、作った読書新聞を互いに見合う活動を仕組むことで、対話を促し、吟味検討をさせることができる。目的や相手を意識した、妥当な読書新聞になっているかを考え、判断させる。

(2) 学校図書館司書の指導

学校図書館司書から児童に指導していただくことで、読書新聞や宮沢賢治についての専門的な知見を児童に与える。それを通して、自分たちの知識や技能、考えを広げ、深めさせていく。大人との対話を入れることで、自分の読みについて再考する機会を与えることができると考える。

【自己との対話】

(1) 学習の振り返り

毎時間、学習の振り返りを行う。学習を通して考えたこと、分かったことや学習での自分や友達のよかったところについて振り返りを行うことで、学びを自覚化させることができると考える。また、単元の終わりには単元全体の振り返りも行い、自分にはどんな力がついたのか意識させる。

並行読書で読んだ作品についてメモする読書記録とらせたり、誰がどの作品を読み終ったのかを把握できる一覧表にチェックさせたりすることで、読書への取組に対して自覚を促す。

(2) 活動の振り返り

読書新聞を宮沢賢治資料館へ送付し、掲示していただく。その反応について宮沢賢治資料館から情報をいただき、児童に伝えることで、自分たちの活動の振り返りをさせる。成果や課題について整理し、他の学習へ生かす。

単元計画 (全15時間)

| 次 | 時 | 学習活動 | 評価 | | | |
|---|-----|--|----|----|----|---|
| | | | 知技 | 読む | 学び | 評価規準 (評価方法) |
| 一 | 1 | 課題の設定 学習課題「ようこそ！宮沢賢治の世界へ」を設定し、読書新聞を見て、学習計画を立てる。 | | | ○ | 学習課題から学習の見通しをもち、学習計画を立てている。 (ノート, 発言) |
| | 2 | 情報の収集 整理・分析 宮沢賢治についての資料を読み、作者について分かったことをまとめる。 | | ○ | | 文章を読んで分かったことをまとめている。 (ノート) |
| | 3 | 情報の収集 整理・分析 宮沢賢治について分かったことを共有し、整理・分析する。 | | | ○ | 文章を読んで椋鳩十について知ろうとしている。 (ノート, 行動観察) |
| 二 | 4 | 情報の収集 物語「注文の多い料理店」を読み、一人学びをする。 | | | ○ | 本文を読んで、物語の大体を捉え、物語の「ナゾ」を見つけている。 (ノート) |
| | 5 | 情報の収集 整理・分析 あらすじと2人の紳士の心情の変化について大まかに整理する。 | | ○ | | 登場人物の相互関係や心情について描写をもとに捉えている。 (ノート, 発言) |
| | 6・7 | 情報の収集 整理・分析 戸の言葉に着目し、2人の紳士の捉えと本当の意味について整理し、比較をすることを通して物語の「ナゾ」を解決する。 | ○ | ◎ | | 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (ノート, 発言) |

宮沢賢治作品・宮沢賢治の伝記の並行読書

| | | | | | |
|--|--|---|---|---|--|
| 8 | 情報の収集 整理・分析 題名や表現の工夫（比喻やオノマトペ等）に着目し、その効果を考えることを通して物語の「ナゾ」を解決する。 | ◎ | ○ | | 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 比喻や反復等の表現の工夫に気付いている。（ノート、発言） |
| 9 | 情報の収集 整理・分析 料理店を見つける前の紳士たちの様子と現実の世界に帰ってきた紳士たちの様子を比較することを通して、物語の「ナゾ」を解決する。（本時） | | ○ | | 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。 人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（ノート、発言） |
| 10 | まとめ・創造・表現 宮沢賢治が作品を通して伝えたいことについて考え、話し合う。 （童話「やまなし」との比較、他の作品との比較） | | ◎ | ○ | 物語の全体像を具体的に想像し、作者が作品を通して伝えたいことについて考えている。（ノート、発言） |
| 三 11 12 13 14 15 | 整理・分析 読書新聞に載せる情報を整理し、割り付けや見出しを考える。 | | | ○ | 目的や相手意識をもって新聞をつくらうとしている。（行動観察） |
| | まとめ・創造・表現 宮沢賢治や宮沢賢治作品を伝えるための読書新聞をつくる。 | | | ○ | 目的や相手意識をもって新聞をつくらうとしている。（行動観察） |
| | まとめ・創造・表現 読書新聞を互いに見合い、宮沢賢治や宮沢賢治作品について見方や考え方を広げたり深めたりする。 単元の学習を振り返り、自分のついた力について自覚する。 | | | ○ | 目的や相手意識をもって新聞をつくらうとしている。（行動観察） |
| 実行・振り返り 宮沢賢治資料館へ読書新聞を送り、掲示していただく⇒反応について知る | | | | | |

本時の学習

【5学年 本時の目標】

- 中心人物の行動や心情に着目して、作者が物語に込めた思いについて読み取ることを通して、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

【準備物】

挿絵，短冊

| ○評価規準【教科】 ★望ましい姿【資質・能力】 (評価方法) | 指導上の留意点 | 学習活動 |
|--|---|---|
| | ・学習計画から本時の学習課題を確認させる。 | 1 本時の学習課題を確認し，課題解決の見通しをもつ。 |
| | 椋鳩十は「大造じいさんとガン」を通して，読者にどんなことを伝えたいのだろう。 | |
| ★主体性，積極性 課題追究，解決を繰り返して学習を進めている。 (行動) | ・2つの物語の「ナゾ」について考えることで，本時の学習課題を解決するという見通しをもたせる。 | 2 物語の「ナゾ」①を確認し，解決をする。 |
| | 「おれは，ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。(中略)おれたちは，また堂々と戦おうじゃあないか。」と書いてあるが，大造じいさんが言っている「ひきょうなやり方」と「堂々と戦う」はそれぞれどんなことか？ | |
| ★論理的思考力 言葉にこだわり，大造じいさんの言いたいことについて多面的に考えている。 (行動，発言) | ・ハヤブサと戦った残雪の姿を見たことを通して，大造じいさんは残雪とどのように戦ってこうと考えるようになったかについて考えさせる。(これまでの1～3場面の学習を思い出させる) | 「ひきょうなやり方」 ・残雪が他の敵と戦っているところを不意打ちするやり方。 ・違う敵と戦い弱まっているところに戦いを挑むやり方。 ・工夫がなく，運がよいやり方。 |
| | ・つりばり，タニシ，おとり作戦は「ひきょうなやり方」ではなく，「堂々とした戦い」であることを押さえる。 | 「堂々と戦う」 ・長年の狩人の <u>経験や勘，知恵を生かした</u> 作戦で戦う。 ・それぞれの <u>プライド</u> を出し合った戦い方。 ・ <u>一人と一羽</u> の戦い。 ・ <u>工夫</u> のある戦い。 |
| | ・最後の一文と前文に着目させ，大造じいさんの思いを読み取らせる。 | 3 物語の「ナゾ」②を確認し，解決する。 |
| | 大造じいさんは，どうして残雪を「いつまでも，いつまでも，見守っていたのだろう？どうして，35年も忘れずに思っているのか？ | |
| ○読むこと（論理的思考力） 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。 (ノート) | ・大造じいさんの残雪に対する思いが分かる他の表現も見つけさせる。(「ある晴れた春の朝」，「らんまんときいたスモモの花が，その羽にふれて，雪のように清らかにはらはらと散りました。」，「晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。」) | ・来年こそは勝ってやるという意気込みの表れ。 ・単なる動物ではなく，相手に対して尊敬をもつようになったから。 |
| | ・まとめの書き出しを「作者はこの物語を通して，読者に…」と指定し，課題とまとめの整合性をもたせる。 | 4 本時の学習課題に対してのまとめをする。 |
| | (例) 作者はこの物語を通して，読者に「動物の威厳」について伝えたいのだと思います。なぜなら，… | |
| ★他者理解・他者との協働 相手のよさ，意見や考え方の違いを認め，受け止めている。 (発言，ノート) | ・学習を通して考えたことや分かったこと，学習での自分や友達のよかったところについてふりかえりをさせ，学びの自覚化をさせる。 | 5 学習の振り返りをし，次時への見通しをもつ。 |

【6学年 本時の目標】

- はじめと終わりの中心人物の様子に着目して，作者が物語に込めた思いについて読み取ることを通して，物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすることができる。

【準備物】

挿絵，短冊

| ○評価規準【教科】 ★望ましい姿【資質・能力】 (評価方法) | 指導上の留意点 | 学習活動 |
|--|---|---|
| | ・学習計画から本時の学習課題を確認させる。 | 1 本時の学習課題を確認し，課題解決の見通しをもつ。 |
| | 宮沢賢治は「注文の多い料理店」を通して，読者にどんなことを伝えたいのだろう。 | |
| ★主体性，積極性 課題追究，解決を繰り返して学習を進めている。 (行動) | ・2つの物語の「ナゾ」について考えることで，本時の学習課題を解決するという見通しをもたせる。 | 2 物語の「ナゾ」①を確認し，解決をする。 |
| | はじめと終わりの紳士たちの様子について，どんなところが同じで，どんなところが違うのか？ | |
| ★論理的思考力 ベン図を使って構造化している。 (ノート，行動) | ・ベン図を使って比較させ，同じところ（共通点）と違うところ（相違点）を視覚的に整理できるようにさせる。 | 【共通点】 ・えらそう。(命令口調) ・十円の山鳥を買って帰った。 ・東京へ帰った。 【相違点】 ・「十円も」と「十円 <u>だけ</u> 」 ・「うさぎも買おうとしていた」と「山鳥を買った」 ・「少し顔色を悪くして」と「にわかになんか元気がついて」 ・「何でも構わないから早くタンタァーンとやってみよう」(強気)と「やっと安心」(弱気) ・ <u>「紙くずのようになった顔」</u> |
| | ・同じところ（共通点）に着目させ，なぜ，はじめと終わりで変化していないのか考えさせる。⇒本質は変わらない。すぐに人は変わらない。 ・違うところ（相違点）に着目させ，なぜ，はじめと終わりで変化したのか考えさせる。⇒実際に怖い思いをすると，人の本性が出てくる。 | 3 物語の「ナゾ」②を確認し，解決する。 |
| | ・最後の一文に着目させ，これまでの物語と終わり方が違うことに気付かせる。(パッドエンド) | 3 物語の「ナゾ」②を確認し，解決する。 |
| | 東京に帰っても，お湯に入っても，二人の顔が元のおおりにならなかったのはどうしてなのか？ | |
| | ・椅子を円形にし，順番に意見を述べさせる。 ・二人の顔が「紙くずのよう」な顔であることに着目させ，「紙くず」の持つ意味について考えさせる。 | 4 本時の学習課題に対してのまとめをする。 |
| ○読むこと（論理的思考力） 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。 (ノート) | ・まとめの書き出しを「作者はこの物語を通して，読者に…」と指定し，課題とまとめの整合性をもたせる。 | 4 本時の学習課題に対してのまとめをする。 |
| | (例) 作者はこの物語を通して，読者に「人間の横暴さ」について伝えたいのだと思います。なぜなら，… (例) 作者はこの物語を通して，読者に「自然の恐さ」について伝えたいのだと思います。なぜなら，… | |
| ★他者理解・他者との協働 相手のよさ，意見や考え方の違いを認め，受け止めている。 (発言，ノート) | ・学習を通して考えたことや分かったこと，学習での自分や友達のよかったところについてふりかえりをさせ，学びの自覚化をさせる。 | 5 学習の振り返りをし，次時への見通しをもつ。 |